

# たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

## 桃太郎のおじいさんとおばあさん

三年生を受け持っていて、子どもたちと相談して「もうひとつの桃太郎」という劇をすることにした。劇と踊りと歌で構成した音楽劇なのだけれど、桃太郎が鬼を退治するのではなく、「働かないから人のものを盗むんだ。働いて自分の力で暮らさなければならない。」と叱り、鬼たちは改心して働くようになりましたという教育的配慮？のある脚本だった。

子どもたちも頑張ったし、皆がよく知っているあらすじなので安心して観ていられる。ただ、あまりに平板で我ながら「少々たいくつだなあ。」とも思った。そこで、幕間におじいさんとおばあさんを登場させ、「おじいさんや桃太郎は大丈夫でしょうかねえ。」「なあに、お前の持たせたきび団子があるから心配には及ぶまいよ。」などとナレーションを入れることにした。おばあさん役のH君とおじいさん役のT君はおおはりきりで、彼らに刺激されて子どもたちも生き生きと踊り、歌い、演技するようになった。

今も学芸会が近付くと、草や花や石などの小道具や木や岩などの大道具を作る。段ボールで作った道具はその年かぎりでも壊れてしまい、子どもたちと一緒に作ることは意味があると思うけれども、何とも無駄なように思っていた。だから、自分の学年で使うものだけでなく、他の学年にも声をかけて、合板と垂木と柱を使って道具を作ることにした。丸のことジグソーで切り、釘を打ち付けペンキをかければ出来上がり。先生方が喜んでくれたのに気をよくして夜なべ仕事でがんばった。

学芸会の前の週の金曜日になって、背景幕がまだできていないことに気付いた。みんなの大道具、小道具を作ってあげたのだからきっと手伝ってもらえると思い、「背景幕がまだなのよね。明日午後から描こうかな。」と言ったが反応なし。少なからずいやな思いをしたがしかたない。当時は土曜日でも午前中は授業をしていたから、学校の近くの子どもに声をかけ、わいわい言いながら色をぬり夕方になってようやく仕上がった。

当日、H君とT君は大張りきり。ノリノリで演技し、桃太郎も鬼もどこかに行っちゃって、桃太郎のおじいさんとおばあさんの劇のようになった。アドリブもとび出して、二人が登場するだけで場内は大爆笑になった。

23年前の話で、H君とT君は32歳になっている。だけれど、わたしはそのときのことをはっきりと覚えていて、学芸会が近付くと毎年思い出す。二人は、あの日のことを覚えているだろうか。

明日の学芸会が、子どもたちにとって保護者の皆さまにとって先生方にとって、忘れがたい思い出となることを祈っている。

